南

五

へ13
1344
5

特
へ 13
1344
巻 5

金草鞋二十編緒言

出羽の國羽黒山大權現（倉稻魂の神）は推古天皇元年の出現なり。湯殿月山なる小奇峰靈嵐の光景人目を驚ス應驗あらたなるもとより遠近の民俗信念恭敬し毎年群集齋戒して登山し山中ハ地獄と唱へ多くの人々はゆく硫黄ある山あり火の元煙りたちて温泉沸湧出ス

の音をなすごとくあるひハ

鬪爭の聲をなすものあり、古昔文小角泰澄行基等の知識山徑代錢分叢林を栞し山神祇

はるひ神社佛閣の霊場とするものの諸國ゆ牧牽せる當山
牧のたぐひゆゑ山内の分野狩拾ひ諸人漫ゆ忘れ狩くるに
ことに紙面ゆ出でず故ゆ垢離場梵字川誓の池あり浄土口より
ゆのぼりて白衣となり杖草鞋まぐあらくあるて登山と満山
堂塔の荘厳實ゆ人我を醒さの霊跡なり永仁年間北条
相州貞時鎌倉執權の時羽黒山の修験者訴訟をなす
執事の恣ゆ紀明をゆどことを辱たること北条九代
記の版本ゆ顕然たれば今ゆ書肆錦森堂のあるゆ此編を刻ゆ當
山ゆ詣さるべくとのべども同國酒田風間彦惣なる

人なり三山の繪圖かくびゆ行程の槩を書る草稿をもて
ゆの書を綴る故ゆ梓行せ金の草鞋ゆ奥しう
街道の記行あれば省略ゆ出羽米澤ゆかりて道をあるるに例の渭響の詞を
ゆるるゆ視るゆ倦ざるゆ為なり其餘驛々里數の相
違前後順逆の謬もあるべし欲それ見るべ
爾云

寅七月初春

十返舍一九誌

方言修行金草鞋廿編

十返舍一九著

羽州
羽州
最上
郡
羽黒山
大権
現
境内
の
之
図
御供所
五知如来
ユラノ堂
文殊天
見善院
東北院
アイゼン
三ガク院
正ラン院
積善院
竹ノ院
イトノ院
経蔵
宝積院
宝蔵

御本社
神主
ものの
えぐろの
山ろ
青幣の
於の村
五辺今
半九
花蔵院
開山堂
行者堂
宝積院
別當寺院
南谷
庚申
観音

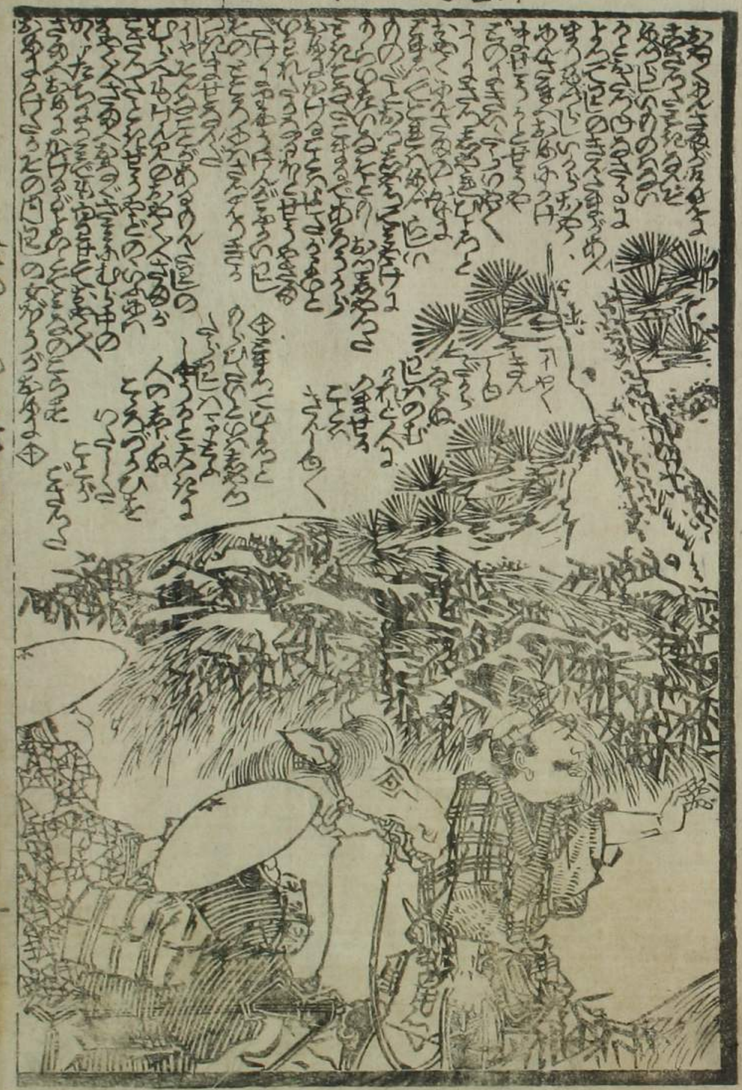
月山
十三間
カヒキ
牛方首
焼月光
冊道坂
野口
湯殿山霊場
御行者戻

者為秘所故
不許顕圖面
矣仍而省之
御田ケ原
ラダラク
みやまぢ
十字亭
三九
御濱
三ゴリ澤
月山

福徳屋金
萬小間物

佐々き木の野　一リ

庭坂　一リ八丁



本堂建立

長崎半

寒河江

海塩 半刊

佐澤

御本社

本地佛

濁澤

月山

龍山

牛首　浄土口

湯殿山

奥州東場

天そう

上の山
稲荷社
宿坊大圓院
別當大行院

大根　細　一半

松　根　一

鶴

御泊箱

義経仙女香

両天傘

和義内戦記　全六冊　近刻

十返舎一九著作

歌川國安画

五